2023年8月10日発行（毎月10日発行）　1953年３月18日第３種郵便物認可

福音時報

FUKUIN JIHOU　C.C.J. 1951

説　教　1　パウロの祈りに励まされ …… 小野寺ほさな
現代の神学者紹介・第六回　2　ラインホールド・ニーバー …… 小林宏和
新約聖書に聴く　3　第四戒 …… 三好　明
特集・「平和」　4　敗戦 …… 大城毅彦
5　一度だけ聞いた母の被爆体験談 …… 奥村綾子
こいのにあ　6　喜び溢れる就職式… 竹井剛
6　人の思いを超えて… 菅野民江
7　大石伝道師就職式ご報告… 川野美寧
7　上田教会牧師就職式… 武重宏呂修
8　浅尾勝哉伝道師就職式のご報告… 中川眞知子
教会ニュース　8

08　2023 | No.848

説教

パウロの祈りに励まされ

フィリピの信徒への手紙　1章11節

小野寺（おのでら）ほさな

イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるように。

世界中が新型コロナウイルス感染症に襲われ、自然災害が立て続けに起こり、紛争や戦争が続く中、終末は近いと感じる人もいるでしょう。確かに、聖書には終末時における世界の破滅を告げる箇所があります。

しかし使徒パウロは、フィリピの信徒への手紙で教会のために祈りました。「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」(1:9-10a)と。さらに「キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるように」(1:10b-11)という祈りです。

愛がますます豊かになるように、「知る力」と「見抜く力」が求められます。具体的には神の御心、つまり、福音が全世界に宣べ伝えられ、神のご支配が完成することを「知る力」と、神が望んでおられることは何かを「見抜く力」です。これらを身に着けることによって愛はますます豊かになると確信した祈りです。そうすれば、一人一人が神の御前に立つ日に備え「清い者、とがめられることのない者」となって神の栄光と誉れとをたたえることができると信じて祈っているのです。

パウロにとって終末は恐ろしい時ではありません。しかし、わたしたちにそのようなことが出来るでしょうか。どんなに頑張っても、神の御前に清いと主張することはできませんし、とがめられることのない者にもなれません。

だからこそパウロは、「イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて」と、既に主イエスによって「義」とされていることを前提に、その実りである「義の実をあふれるほどに受けて」と語るのです。「義」とは罪がないことです。パウロは、わたしたちは罪人でありながら、主イエスの十字架によって罪赦され、義と認められ、主イエスによる救いを受けた時点で、終りの日には、既に神の御前で「清い者」「とがめられることがない者」として立つことが出来るのだと確信して祈っているのです。

復活の主イエスと出会ったことによって、キリスト者として新しく生き始めたパウロにとって終末はもはや恐怖の対象ではなくなりました。キリスト再臨の日が、神の御前での自分の人生の総決算と考えるならば、確かに緊張感はつきまといます。しかし恐れではありません。終末は、一人一人を生かす神の御業の完成の日であり、そうであるが故に、喜びの日、待望の日であると、パウロは確信することができたのです。

フィリピの信徒への手紙1章9節以下は、パウロ自身の「神の愛と終末における救いの確信」に基づく祈りです。パウロは、取るに足りない自分をも一人の人間として生かしてくださる神の愛と恵みに接し、その愛と恵みに生かされている者として祈りました。私たちもこのパウロの祈りに励まされ、終末を喜び待ち望みつつ、今この時、愛をますます豊かにされ、神の栄光と誉れとをたたえ続ける者でありたいと思います。